



大阪+知的障害+地域+おもい=創造

知の知の知の知

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所情報誌通算 2595 号 2015.8.24 発行

川口市、重度障害児の受給者証を更新せず 厚労省「考えられない」



埼玉新聞 2015年8月23日

女兒は目を離すと自傷や異食などの行動が伴い常に目が離せない。母親は「もっと寄り添ってもらいたい」と願っている＝川口市内

川口市の民間福祉事業所で「行動援護」の支援を受けている10代の重度知的障害児3人に対し、市がサービスを受ける際に必要な受給者証を更新しないままになっていることが22日までに、関係者への取材で分かった。行動援護は自傷、異食などを伴う重度障害者が日常生活を送る上で不可欠な支援。事業所は現

在、受給者証の提示がなくとも無償でサービスを継続している。

行動援護は判断能力が低く行動に著しい困難を伴う障害者に対し、危険回避のため日常生活の補助、外出支援などを行うサービス。専門知識のある支援員が1対1で行動を共にするため手厚い支援が受けられる。3人の障害児は2008年から今年にかけて、市が行う福祉サービスの介護給付として行動援護を利用している。

受給者証は市町村が発行し、毎年更新が必要。市町村は指定事業者や利用者が提出する利用計画書に基づき、必要なサービスを評価し認定する。3人の受給者証はそれぞれ今年1～5月で期限切れになっているが、その後は市から行動援護の認定を受けられず、継続発行されていない。通常ならばサービスが受けられない状態が続いている。

3人が通う事業所や保護者によると、市は3人の行動援護を認定しない理由として（1）外出のための支援なので建物の中では利用できない（2）行動援護はいずれなくなる（3）子どもには行動援護は使えない（4）通年かつ長期の利用になるため行動援護は使えない一などと説明。障害の状態に応じた明確な説明はなかったという。

川口市障害福祉課の伊藤雅章課長は取材に対し、（2）と（3）については「職員が事実でない説明をしたとは考えられない」と否定。個別の件には触れずに一般論として「行動援護はあくまで外出準備も含めた外出を支援するためのサービス。基本的に事業所内での利用は難しい」と述べた。

一方、厚労省障害福祉課は、行動援護について「外出先の室内でもサービスは認めている。外出支援に限ったものではない。通年かつ長期も、利用者の状態に応じて市町村が必要と判断すれば可能」と指摘。受給者証が発行されていない現状には「通常では考えられない。児童の状態がこれまでと同じなのに今年から認定しなくなったのであれば、相応の理由を保護者にきちんと説明するべき」と話した。

3人のうち自閉症を伴う重度知的障害の10代女兒は危険を認知できず、突然道路に飛び出したり、かみそりを口に入れたりするという。女兒は1月末まで市発行の受給者証を使い、下校後に同事業所でサービスを受けていた。母親は「いつ危険な状態になるかわからない命。行政の人に分かってもらえないのが悔しい」と嘆く。

同事業所代表の男性は「受給者証は障害者にとって人権そのもの。命を守るために一日でも空白ができてはいけない」と強調。市の対応について「障害児に対するネグレクト」と憤りを示し、早期発行を求めている。

■個別案件と考える／国立重度知的障害者総合施設「のぞみの園」事業企画局研究部研究課（群馬県）の志賀利一部長の話

行動援護は単に外出（移動）を支援するサービスではない。行動障害の著しい人の現在や将来を考えて利用計画を立案していくことが前提であり、事業所による居宅サービス計画が重要になる。個別の案件として当事者、事業所、市町村間で、最も良い福祉サービスの組み合わせを考えていくべきだ。

触れてはずむ 盲ろう者会話...「友の会」交流サロン 読売新聞 2015年08月24日



◇通訳付き介護住宅設立目指す

「触手話」で、盲ろうの友人と会話を楽しむ井戸さん（左、和歌山市美園町の「はあと つう はんど」で）

目が見えず、耳も聞こえない。そんな「盲ろう」の人たちが、地域の中で共同生活できる場所を作ろうと奮闘しているNPOが和歌山市にある。「和歌山盲ろう者友の会」（小杉純弘代表）。JR和歌山駅前のみその商店街の一角に、同会は誰でも立ち寄れるサロンを構えており、訪ねた。（下村公美）

盲ろう者と一口に言っても、視力、聴力ともわずかながら残っている「弱視難聴」の人や、二つの力を完全に消失した「全盲ろう」の人など、障害の程度は様々だ。でも、重い障害があるからといってコミュニケーションがとれない訳ではない。各自の見え方、聞こえ方に応じて点字、手話、筆談など適切な手段を選び、「会話」を楽しむ。外出の際は、人や物にぶつからないよう、白杖を持って道を確認しながら進んだり、通訳介助者と出歩いたりして、社会と関わっていく。

県のまとめでは、県内で目と耳の両方の身体障害者手帳を併せ持つ人が約130人いる。全国では約1万4000人に上るとされる。

友の会は2004年、盲ろう者が共に生活できる場を作ろうと設立された。会員は、盲ろう者7人と介助者約25人で構成する。手話や点字の勉強会を開いたり、盲ろう者同士が交流する場を提供したりしている。同会のサロン「はあと つう はんど」（木曜定休）で開かれる。

全盲ろうの井戸英代さん（64）（有田市）は、最も積極的に交流会に顔を出す一人。手話でメッセージを送ってくれる相手の手を、自分の手で触れて、意味を読み取る「触手話」でおしゃべりをするのが何よりの楽しみだから、だ。

井戸さんは生まれつき耳が聞こえない。50歳頃から視力も低下し全盲ろうと診断された。自宅では87歳の母と2人で暮らす。「母は手話ができない。母の支えには感謝しているが触手話を通じた会話は難しいから、寂しく思うこともある」と打ち明ける。

記者が訪れた日、井戸さんは午前10時から午後3時過ぎまでサロンで過ごした。帰宅時間になると、ふたを外して文字盤に触れられる腕時計で時間を確かめ、通訳介助者に付き添われて名残惜しそうに部屋を後にした。

同会事務局長の瀬戸節子さん（60）は「盲ろう者は一人での外出が難しく、家にこもりきりになることが多い。誰とも話をしなければ、きょうの日付さえ分からなくなる」と指摘する。

「いつでも誰かとおしゃべりできる場所があったらなあ」。発足当初から要望のあった声を踏まえ、友の会は、盲ろう者が通訳介助者のサポートを受けながら一緒に暮らせる「サービス付き介護住宅」の設立を目指している。

今秋には不動産業者や介助者などを交えた勉強会を開く予定だ。だが、設立には介助者の養成や金銭面など、課題が山積している。県と和歌山市が同会を通じて通訳介助者に支給する報酬の一部を、会員で積み立てて準備金に回すが、それでも月に6万～7万円だ。

まだまだ「盲ろう」というダブル・ハンディーキャップ（二重苦）の言葉自体、浸透が進んでおらず、寄付など支援の手も届きにくいのが実情だ。友の会は「まず、多くの人に盲ろう者の存在を知ってもらいたい」と呼びかけている。

◇日常生活描く、29日に上映会 「渚のふたり」上映会のチラシ

和歌山盲ろう者友の会は29日午後2時から和歌山市手平の和歌山ビッグ愛で、盲ろう者の日常を追った韓国のドキュメンタリー映画「渚のふたり」の上映会を開く。

映画では幼い頃に視力と聴力を失った夫ヨンチャンと、脊椎障害で少し小柄な妻スンホの生活を描く。2人のコミュニケーションを支えるのは、両手（各ひとさし指、中指、薬指）の計6本の指を点字の六つの点に見立て、指で点字の形を表し、触れてもらって相手にメッセージを伝える「指点字」という手段。日本でも活用されている。

同会は「幅広い年代の人が鑑賞し、盲ろうについて知るきっかけにできれば」と期待をこめる。無料。定員50人。事前申し込みは不要。問い合わせは同会（073・498・7756）へ。



知的障害者の楽団30周年 姫路で記念コンサート 神戸新聞 2015年8月23日

観客席からの声援に応える楽団「ポケット」のメンバーら＝姫路市文化センター



兵庫県姫路市打越の知的障害者支援施設「三恵園」の入所者で構成する楽団「ポケット」の結成30周年コンサートが23日、同市西延末の市文化センターで開かれた。プロの音楽家とも共演し、約300人の観客と音楽の楽しさを共有した。

楽団は1986年5月に結成。神戸の障害者楽団の演奏に触発されたという。施設で週1回の練習を重ね、福祉施設や保育所などで演奏を披露してきた。

レパートリーは年々広がり、現在は9人がキーボードやマリimba、ドラム、パーカッションなどを奏で、年数回の公演を続ける。

この日は同施設のコーラスグループと、作曲家の青島広志さん、声楽家の小野勉さんがゲスト出演。「ポケット」結成当初からのメンバー三浦克介さん（51）がキーボードで演奏をリードし、振り付けも交え、節目の演奏会を観客と一緒に楽しんだ。三浦さんは「会場のみんなど会えて楽しかった」と、満面の笑みを浮かべた。（大山伸一郎）

パラリンピックメダリストが走り方指導 NHK ニュース 2015年8月23日



片足が義足のパラリンピックの陸上のメダリストが、義足の障害者に走り方を指導する催しが開かれました。

この催しは、ドイツの義足などのメーカーが、2020年にパラリンピックを控えた日本人たちに障害者スポーツを知ってもらおうと、初めて開きました。東京・世田谷区の陸上競技場の会場には、事

故や病気で片足を切断した、中学生から50代までの男女合わせて13人が集まりました。

指導したのは、いずれも片足が義足で、ロンドンパラリンピック男子100メートル金メダリストのドイツのハインリッヒ・ポポフ選手と、北京パラリンピックの男子走り幅跳び銀メダルの山本篤選手です。

ポポフ選手は、義足で走るには体幹の筋肉を使うことが重要だと説明し、はじめに1時間かけて体幹の筋力トレーニングを行いました。

このあとトラックで走り方を指導し、義足に意識を集中させるのではなく、リラックスして、からだ全体を使うほうが走りやすくなるとアドバイスしていました。

3年前に事故で右足を切断した24歳の男性は、「走れることは、とても楽しいと感じた。少しでもトップ選手に近づけるように頑張りたい」と話していました。

ポポフ選手は、「参加者の積極的な姿勢に感銘を受け、楽しい時間を過ごすことができた。義足になってしまった人たちには、家にこもるのではなく、外に出てスポーツをすれば、人生が楽しくなると知ってほしい」と話していました。



<ツール・ド・東北>メダリストも積極参加

河北新報 2015年8月24日
世界選手権優勝者だけが着ることができるジャージーを持つ藤田さん。2年連続のツール・ド・東北出場を喜ぶ=4日、成田空港

◎進化に挑む(3) 障害を越えて

2008年北京、12年ロンドン両パラリンピック自転車メダリスト、藤田征樹(まさき)さん(30)=茨城県土浦市=は昨年に続き、9月13日のツール・ド・東北に出る。

障害者自転車競技「パラサイクリング」のエースとして成長を続ける。スイスで今年1日にあった世界選手権男子ロードレースで金メダルに輝いた。ロードレースでは自身初の頂点だ。

ツール・ド・東北との縁は前回大会で特別協賛のサントリーが実施した「パラサイクリングプロジェクト」で生まれた。

藤田さんは障害があっても参加しやすい大会を目指すプロジェクトの趣旨に共鳴。日本パラサイクリング連盟の強化指定選手らと石巻市、宮城県女川、南三陸両町を走る100キロコース「北上フوند」に出場した。

東北の被災地を目の当たりにしたのは初めてだった。建物だけがぼつりと残り、震災の惨状を伝える風景が忘れられない。

<一体感に浸る>

走行中には朝早くから熱心な声援を受けた。エイドステーション(休憩所)で地元住民との交流を満喫した。魚好きの藤田さんにとって地場産サンマのすり身汁「女川汁」は格別のごちそうだった。

「参加者、サポートする人、応援する人が一体となった様子に感激した」

トライアスロンに打ち込んでいた藤田さんは東海大2年の04年8月、交通事故に遭って両脚の膝から下を切断した。22歳で日本障害者自転車競技大会に参加し、関係者に誘われて本格的に取り組んだ。自転車専用の義足を履き、その先端とペダルを固定して走る。

<楽しさは共通>

「パラサイクリングを障害者スポーツというよりは自転車のカテゴリーの一つと捉えてほしい」と藤田さん。「障害の有無にかかわらず自転車を楽しめる点もアピールしたい」と言う。

次の目標は16年のリオデジャネイロ・パラリンピックに出場し、優勝することだ。「普段の練習をより分厚くして各大会で勝利のステップを一つずつ踏みたい」と誓う。

トップ選手を含めてさまざまな立場の人々が沿岸部を駆けるツール・ド・東北。藤田さんは「被災地への思いと自転車の素晴らしさを共有する場。出場が待ち遠しい」と意気込む。



**<元気人@かながわ>社会とつなぐ役割に 障害者支援の「K I V A」
設立 松本文之さん（62歳）**

東京新聞 2015年8月24日

自らの体験を経て、うつや適応障害、引きこもりなど心を病んだ人たちが「社会と関わりを持ち、社会も障害者に関心を持ってもらおう」と、相模原市に「南区障害者福祉協議会」（愛称・K I V A（キーバ））を結成した。キーバはスワヒリ語で「繋（つな）がり」を意味する。「同じような人が集まってコミュニティを作るとちょっとしたことで人間関係が壊れ、また自分の殻に閉じこもってしまうんです。いわゆる健常者も含めて人間関係をつくっていくことが大切だと思います」

■脳出血でまひ

二〇〇八年暮れ。取引先へのあいさつを終え、忘年会もセットして自宅近くの飲食店でひと息ついていた。トイレに立ったまま戻ってこないのを心配した店の人に、倒れている姿を発見された。脳出血だった。

病院に運ばれ一カ月以上たち、年を越して意識を取り戻すものの自分の状態を理解できなかった。「自分では痛くも何ともなく、普通と思っているのに、まひが残っているんです。不思議でした」

高次脳機能障害と診断されたが、リハビリを経て職場復帰する。「それでも物事を三つ以上覚えられない。短期記憶障害というらしく、いつもメモ用紙を手で自分のやることをメモし、チェックしていました」。当時の記憶は曖昧で、取るに足らないことでけんか腰の物言いをしていたと、後々周りの人に言われたが「一切覚えていない」と振り返る。定年まで一年を残して退職。その後、障害者手帳を申請する検査で、視野障害と血管性認知症が認められたという。

■活動で症状改善

退職後に福祉関係者と交わるようになった。イタリアが一九七八年に精神科の病院を廃止した実話に基づく映画「M a t t o の町」の上映運動を知ったのがきっかけで、会の結成に進む。心を病んだ人たちと作業所などで付き合う中「真面目で我慢しすぎて壊れてしまっているのではないか」「一気にすべてを話そうとするので思いが相手に伝わらないことが多い」と感じている。そして「障害者の世界に手を突っ込んだり、ふたを開けてのぞいたりして」と、独特の表現で社会の関心を訴える。

活動するにつれ認知症の症状は劇的に改善していく。「理性を受け入れるなら恐怖も受け入れよ」という映画の中にあつたセリフが好きだ。最後に「自分の健康より大事なものは会社に転がっていない」としみじみと語った。（編集委員・小寺勝美）

◆私の履歴書

1952年 東京都世田谷区生まれ。都立高校から日本大学理工学部へ

74年 都内の地質調査会社に就職。技師、営業職などに就く

2008年 12月に脳出血で倒れる。リハビリを経て翌09年4月に職場復帰

11年 定年を1年前にして退職

14年 5月、K I V A設立と同時に会長に就く

15年 5月、1周年事業の映画「M a t t o の町」上映会が約270人の参加者を得て成功

体臭で病気の種類まで分かる？ がん発見に活用も

日本経済新聞 2015年8月24日

聞きたかったけど、聞けなかった。知ってるようで、知らなかった。日常的な生活シーンにある「カラダの反応・仕組み」に関する謎について、真面目にかつ楽しく解説する連載コラム。酒席のうんちくネタに使うもよし、子どもからの素朴な質問に備えるもよし。人生の極上の“からだ知恵録”をお届けしよう。

アルコールを飲み過ぎると、吐く息が熟れた柿のようなにおいになり、体全体も酒臭くなる。ニンニクたっぷりの焼き肉を食べた後は、口臭も体臭もニンニク臭くなる……。そんな経験は誰にでもあるだろう。口臭や体臭は、体内の状態に応じて変わる。

では、病気の場合はどうだろう。病気になると、口臭や体臭も変化してくるのだろうか。おい研究で知られる嗅覚研究所代表の外崎肇一さんに聞いてみた。



■日本でも明治時代までは体臭で病気を診断

病気になると、口臭や体臭も変化する。(c)Viorel Sima-123RF

「病気には特有のにおいがあることが、昔から知られています。例えば、イギリスの哲学者フランシス・ベーコンは、ヨーロッパで流行したペスト（黒死病）について『腐った柔らかいリンゴのようなにおいだ』と書き残しています。そもそも病気になると、体内での物質の合成や化学反応が健康時とは違ってきます。物質にはそれぞれ特有のにおいがあり、それが血液に乗って全身を回り、汗や尿、吐く息などに混じって体臭になる。体臭は、まさに体の変化を知らせるサインなのです」と外崎

さんは説明する。

血液検査やレントゲン検査といった客観的な検査法がなかった時代、においは病気を見極める重要な判断材料だった。患者の体臭を嗅いで病気を診断する「嗅診（きゅうしん）」は、日本でも明治時代までは当たり前のように行われていたという。「当時は現代のような検査機器がないし、また位の高い人を診察する場合は直接体に触れることもできない。そこで、医師は患者の姿や動きをよく観察し、鼻を研ぎ澄ませて体が発するにおいを嗅いだ。もちろん、便や尿のにおいも重要でした。それらの情報を手掛かりにして、病気を診断したわけです」（外崎さん）。

■糖尿病になると甘いにおいが

では実際、体臭でどんな病気に分かるのだろうか。

例えば、糖尿病になると「甘いにおい」がするといわれる。「糖尿病の初期は尿や体から甘いにおいがするが、進行すると甘酸っぱいにおいになる」と外崎さん。糖尿病が進んで糖がうまく代謝されなくなると、糖の代わりに脂肪がエネルギー源として使われるようになる。この結果、体内で生成されるのが、アセトン（ケトン体）という物質だ。甘酸っぱいにおいで、「ケトン臭」と呼ばれる。これが血液とともに全身を巡るため、汗や尿、吐く息、体臭が甘酸っぱくなるというわけだ。心当たりのある人は、ぜひ糖尿病の検査を！

なお、糖質を制限するダイエットをしていると、同様に甘酸っぱいにおいが出てくることがある。このため、ケトン臭は「ダイエット臭」などと呼ばれることもある。

また、ずばり甘い香りを連想させる病気もある。「メープルシロップ尿症」という乳児の病気だ。その名前の通り、メープルシロップのような甘いにおいの尿や汗が出る。必須アミノ酸のロイシン、バリン、イソロイシンを代謝する酵素が働かないために起こり、治療をしないと発育障害などを来し、死に至るケースもあるという。「赤ちゃんの尿や体から甘いにおいがするので、お母さんが気づくことが多い」と外崎さん。

■胃腸障害があると酸っぱいにおいや腐敗臭が

病気による体臭の変化

病名	体臭の特徴
糖尿病	甘いにおい、甘酸っぱいにおい
胃の障害	酸っぱいにおい、卵の腐ったにおい

腎機能の障害	アンモニアのにおい
肝機能の障害	ネズミ臭、ドブのようなにおい
痛風	古いビールのおい
ひどい便秘	便のおい
慢性副鼻腔炎（ちくのう症）	腐ったにおい
メープルシロップ尿症	メープルシロップの甘いにおい
トリメチルアミン尿症（魚臭症候群）	魚が腐ったにおい
フェニルケトン尿症	カビのおい
歯周病	腐ったにおい
ペスト	青りんごの腐ったにおい

病気のおいには、昔から経験的に言い伝えられてきたものが多い。（資料提供：外崎肇一さん）

これとは逆に、尿や体が嫌なにおいになる病気も。代表的なのが、魚が腐ったようなにおいがする「トリメチルアミン尿症（魚臭症候群）」やカビ臭い「フェニルケトン尿症」だ。いずれも特定の酵素が欠損しているために起こる。乳児や幼児に見られ、体臭が病気発見のきっかけになることが多い。

このほか、胃もたれなどの胃腸障害があると、吐く息に酸っぱいにおいや腐敗臭が混じること。「酸っぱいのは胃酸のおい。腐敗臭は、胃の働きが悪いため食べたものが胃内にたまって発生します」（外崎さん）。腐敗臭は、他に歯周病や慢性副鼻腔炎（ちくのう症）でも起こりやすい。

尿を作る腎臓に腎炎などの病気があると、アンモニアのにおいがすることもあるという。また、ひどい便秘の場合は、便臭がすることも。「便秘の場合は、2つの経路で便のおいが体臭に混じる可能性があります。一つは、便のおい物質が血流に乗って全身を回るルート。もう一つは、腸内のガスが胃や食道、気道へと、げっぷのように逆流するルートです」と外崎さん。ためこみ過ぎるのは、危険！便秘は軽いうちに解消しておきたい。

■探知犬や線虫でがんを発見

がんにもにおいがあるという。

「例えば、手術で患部を開けたとたん、がん特有のにおいがすると言う外科医がいます。がん病棟に行くと特殊なにおいがすると話す医師もいます。また、“新緑のにおい”“化学調味料のにおい”“硫黄のようなにおい”などと表現する人も。実際、がんにはにおいがあり、それを診断に役立てようという動きもあります」（外崎さん）

吐く息や血液、尿のにおいを嗅ぐことで、がんがあるかどうかを高確率に嗅ぎ分けられる「がん探知犬」。この探知犬をがんの検査に活用しようという試みもある。においを感じる嗅細胞は、人間の鼻の中に約500万個あるが、犬の場合はそれよりもはるかに多い約2億個もあるという。なかでも、がん探知犬は非常に優れた鼻を持つ嗅覚の超エリート。

以前、探知犬の研究に携わっていた外崎さんは、「人の鼻では分からないような、ごく低い濃度でも、探知犬は100%近い確率でがんかどうかを嗅ぎ分けた。この研究から、がんには特定のにおいがあることが分かった」と話す。そのにおい物質が何なのか、まだ特定されるには至っていないが、外崎さんは「がん細胞が増殖する際に発生する一種の化学物質のにおいではないか」とにらんでいる。

探知犬に続き、体長1ミリほどの「線虫」もがんのにおいを嗅ぎ分けられることが、九州大学の研究で分かってきた。線虫はがんのにおいに引き寄せられる性質があり、1滴の尿があれば95.8%の確率でがんを診断できるという。しかも、従来のがん検診では見つけられなかった早期がんを発見できる可能性もあるというから、スゴイ！

体が発するにおいは、まさしく体調のバロメーター。外崎さんは最後に、こんな助言をしてくれた。「推理小説などで、怪しい人物のことを『アイツがにおう』などと表現しますが、体も同じ。『なんとなくにおう』は、体調が怪しいサインと捉え、病気の早期発見や健

健康管理に生かしてほしいですね」。(佐田節子=ライター)



Profile 外崎肇一 (とのさき けいいち) 嗅覚研究所代表
東京教育大学大学院修了。理学博士。専門は嗅覚生理学。フロリダ州立大学客員教授、岐阜大学大学院教授、明海大学歯学部教授などを経て、現在は嗅覚研究所代表。文教大学講師、神奈川県立看護専門学校講師、社団法人次世代センサー協議会委員兼監事なども務める。がん探知犬研究のパイオニアとして多くのテレビ番組にも出演。著書は『マンガでわかる香り と フェロモンの疑問 50』(サイエンス・アイ新書)、『ニオイをかげば病気がわかる』(講談社+α新書) など。

車いす、スマホで段差のない道順 五輪へ電子地図づくり 朝日新聞 2015年8月23日



車いす利用者向け最適ルート提供のイメージ

東京五輪・パラリンピック開催時に、車いすを使う人が空港や競技会場を行き来するのに最適なルートはどれか。そんな情報をスマートフォンなどで検索できるシステムを目指した実験を国土交通省などが始める。車いすごと乗り込めるリフト付きバスの普及なども進め、障害者や高齢者も会場で楽しめる大会を目指す。

2006年施行のバリアフリー法にもとづき、エレベーターなどの設置は進んでいるものの、店舗の入り口や、地下でつながるビルとビルとの間にある微妙な段差をすべてなくすのは難しい。こうした段差で、車いす利用者が自由に動きにくくなっている。

こうした細かな段差情報も含めた電子情報を集めるのが、今回の取り組みの狙いだ。まずは今年度中にJR東京駅周辺で詳細な電子地図づくりを始める。実験には、JR東日本や東京メトロ、三菱地所、NTTなどが参加。GPS(全地球測位システム)や公衆無線LANなどで、利用者の位置情報を細かく把握する技術も試す。

山県の野菜など並ぶ 「すいげん祭り」にぎわう 中日新聞 2015年8月24日



新鮮なピーマンやシイタケを売るブースで品定めをする人たち=山県市大門の伊自良ふれあい・さわやかドームで

地元で採れた野菜や特産品を広める「すいげん祭り」が二十三日、山県市大門の伊自良ふれあい・さわやかドームで開かれ、市内外の家族連れなどでにぎわった。

地元の農家のほか、市内の障害者の就労支援施設に通う人たちが作ったピーマンやシイタケ、ワサビなどを生産者自らが販売。同市発祥といわれるハヤ

シライスや市産の黒ニンニクを使ったぴりっと辛い「山県ブラック餃子(ぎょうざ)」なども人気だった。

犬を連れて来ていた岐阜市早田栄町の会社員橋本俊介さん(66)は「山県は自然豊かで魅力的。産直も盛りだくさんで楽しかった」と話していた。(督あかり)

